

9月5日（金）

ボルトン区議会表敬訪問

9月5日午前9時、グレーター・マンチェスター合同行政機構を構成する自治体の一つであるボルトン区議会との交流を図るため、ボルトン区庁舎を訪問した。庁舎玄関でニック・ピール議長(Leader Nick Peel)に出迎えていただき、その後、区庁舎や周辺環境等について以下の説明を受けた。

- ・庁舎の周りを新たに開発している。中心部の人口を増やすため、住宅を建設している。
- ・2週間前に「フード&ドリンクフェスティバル」が区庁舎前の広場で開催された。4日間で56万人が訪れた。音楽やパフォーマンスもいろいろと行われた。その時の動画は後ほどご覧いただく。

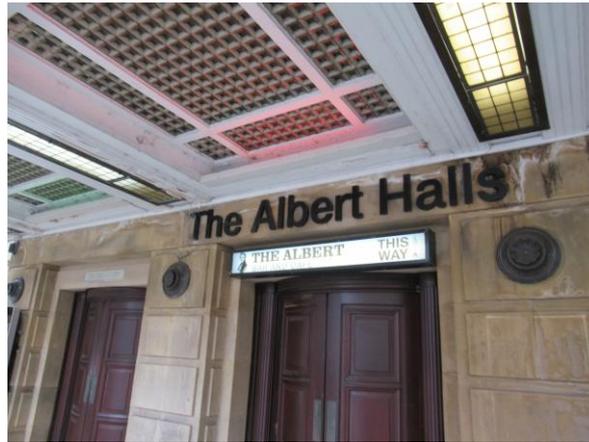


ボルトン区庁舎



区庁舎前の広場

- ・庁舎の周辺には様々な制作ができるスタジオ（劇場）がある。ボルトンは「イングランド北部のハリウッド」として知られている。
- ・ボルトンには古代エジプトの貴重なコレクションがたくさんある。エジプト探検基金（後のエジプト探検協会）から、エジプトでの発掘資金を集めるボルトン地域の名誉地方書記に任命されたアニー・バーロウがチャドウィック博物館（現在のボルトン博物館の前身）に寄贈したものである。
- ・庁舎内に劇場がある。劇場は綿工業で成功した者の寄付によって建設された。「アルバートホール」と名付けられているが、ビクトリア女王の夫のアルバート公に由来する。ロンドンにもアルバート公にちなんだロイヤル・アルバート・ホールがある。



アルバートホール

【ニック・ピール議長の挨拶及び説明の概要】

OHAYO GOZAIMASU（日本語で）

大阪市会議長、事務局長をお迎えできたことをうれしく思う。また、二つの都市の議会がこうして交流できることをうれしく思う。

英国と日本の交流の歴史は 1865 年に留学生が英国を訪れたときから始まる。ボルトンは当時と変わらず新しいことを受け入れる体制ができている。ボルトンには素晴らしいことがたくさんある。それをグローバルに共有したいと思っている。

今年の初めにボルトンの新しい計画を打ち出した。野心的なことをやっというものである。アントレプレナーシップ（起業家精神）を持ったビジネスの展開、経済の成長、都市再開発などである。

ボルトンの中心はビジネスである。ボルトンで始まって大きくなった企業（ウォルマート、エイヨー、カーズ、パステーズ、MBPA など）はたくさんある。ボルトンは常にビジネスが繁栄するまちである。これが可能だったのは、アントレプレナーシップとボルトン区からの支援があったからである。

ボルトンには常に雇用がある。ボルトンはイギリスでナンバーワンのリテール（小売業）のまちである。ボルトンの南部にはロジスティックの巨人というべきアマゾンがある。さらに、4,000 万ポンドをかけて、メディカルセンター（医療研究所）をつくった。これが住民にとっての利益となり、最先端の医療の提供に貢献している。

小売業を根幹にして新しいビジネスが生まれ、新しい人が集まってくる。今大きな変化が起きている。我々は常に変化に対応していかなければならない。かつてボルトンは、イギリス国家において小売業の首都であった。しかし、消費者の買い物の方法が変わった。我々も変わらなければならない。だから、我々はまちの中心部の再開発をして、住居をつくり、エンターテインメント（娯楽）を入れ、変えていこうとしている。公園も図書館も新しくする。新たに 5,000 人の住民を呼び寄せよ

うと考えている。新しい技能を学ぶ機会を提供したい。中央政府からそのための補助金を獲得した。

イギリスで最大規模の再開発計画である。物理的に変えるだけではなく、新しい概念、アイデアをボルトンに持ち込もうとしている。ボルトンが今体験していることは、ルネッサンスである。ルネッサンスは我々が持つ文化的な資産をもとに新しい創造的な才能を持った人を呼び込んだり、育てたりするということである。こうして多くの人、お金が流入することにより住民のQOLが向上している。

ボルトンは治安がよく、夜も安心して外出していただける。大きなイベントをするインフラも整っている。自然を活用したツーリズムも促進している。ビジネスも観光も会議もしていただける、そんなポテンシャルも大きい。デジタルエコノミーの時代の技能問題にも対応しようとしている。ラグビーワールドカップなどの歴史と伝統があり、ビジネスを呼び込むことも可能だと思う。2週間前に、20回目となるフード&ドリンクフェスティバルが区庁舎前の広場で開催された。4日間にわたって180のイベントが開催され、ストアが出店され、ライブも行われた。4日間で56万人もの人が訪れた。イギリスで最大規模である。

ここでフード&ドリンクフェスティバルの様子を動画で見ていただく。

[動画視聴 1] フード&ドリンクフェスティバルの記録ビデオ

次に、ボルトンの特徴について申し上げる。

ボルトンは「つながりのいいところ」である。コミュニティのつながり、社会的なつながり、交通のつながり、そしてパートナーとのつながりのいいところである。マンチェスター市とつながりが深く、それが拡大してグレーター・マンチェスターとしての信頼を受け、恩恵を受けている。

私はボルトン区議会の議長であり、グレーター・マンチェスター合同行政機構のデジタル関係の担当をしている。特にサイバーストラテジーの分野で協力できるのではないかとワクワクしている。ボルトンは、ロンドンに次いでサイバーセキュリティ分野が進んでいる。サイバー協会があり、金額にして50億ポンドの価値がある。

グレーター・マンチェスター全体で5年計画を持っている。これによってサイバー協会をもっと大規模なものにしていくため、人材を集め育てていくこととしている。グレーター・マンチェスター合同行政機構は、そのための投資先を複数考えている。その投資先はボルトン区とウィガン区とされている。北のネットワークである。戦略的な方法として、もっと健康的な、緑の多い住みやすい街にしようというものである。デリバリープラン（具体的な計画）として、国際的イベント、プロゴルフの大会で有名なライダーカップ、健康、食品、ツーリズムなどのイベントを開催していこうと考えている。

ノースフォールド (North Fold) に 2035 年までに 9,000 戸の住居、34 万 6,000 m² の産業スペースの整備を計画しており、成長による付加価値を 3 億 5,600 万ポンドと見込んでいる。これだけの投資が見込まれる大きなプロジェクトである。今イギリスが国として掲げる問題はどうかやって経済成長を加速させるかということであるが、2035 年のボルトンの計画がその中心の一つになると考えられる。

ここでボルトンの経済戦略に関する動画を見ていただく。

[動画視聴 2] ボルトン区の経済戦略に関する動画

ボルトンとグレーター・マンチェスター合同行政機構の取組のスケールの大きさがお分かりいただけたと思う。ボルトンの経済力、野心、新たに起業家を育てる創造的精神をご紹介した。ボルトンはこの計画を必ず達成すると確信いただいたと思う。大阪の皆さんにぜひここでビジネスを展開していただきたい。

【杉村の挨拶の概要】

Nice to meet you. My name is Kotaro Sugimura. I am the President of the Osaka City Council.

ニック・ピール区会議長をはじめ、ボルトン区議会の皆さんに本日お会いすることを大変楽しみにしていた。心温まる歓迎に心から感謝申し上げます。



挨拶の様子

大阪は、かつて「東洋のマンチェスター」と呼ばれていた。それは、18 世紀から 19 世紀にかけて行われた産業革命がマンチェスターで発祥し、世界の産業をリードしていたが、アジアにおいては、我が大阪がマンチェスターの成功にならって急速に産業を発展させたことに由来する。

古くから大阪とグレーター・マンチェスターには共通点が多いが、近年は様々な分野での交流が深化しており、大阪市にとってグレーター・マンチェスターは最も重要なパートナーの一つとなった。明日には、姉妹都市提携が調印され、ますます幅広い分野で両都市の交流が深まることと思う。アンディ・バーナム市長が今年の 6 月に大阪に来られた時に、「これからはマンチェスターが西洋の大阪を目指す」と言われた。

非常に恐縮ながらもありがたい言葉だと思っている。

また、大阪では10月13日まで「大阪・関西万博」が開催されている。ぜひ何度でも大阪へお越しいただき、活力あふれるその姿と大阪の「おもてなし」を感じていただきたい。大阪で再びお会いできることを楽しみにしている。

最後になったが、ピール議長をはじめ、ボルトン区議会の皆さんに深く感謝申し上げるとともに、ボルトン区議会のますますのご発展と大阪市とグレーター・マンチェスター合同行政機構の繁栄を祈念して私の挨拶とする。

ここで、大阪を紹介する動画をお持ちしたのでご覧いただきたい。

[動画披露] 大阪市広報動画「City of Osaka」



大阪市広報動画の視聴

【意見交換の概要】

- ピール議長 ぜひ大阪に行きたい。
- 杉村 ぜひお越しいただきたい。何度でも。
- ピール議長 大阪は2つの点でマンチェスターに勝っている。マンチェスターには海岸がない。もう一つはお城がない。大阪は素晴らしい。
- 杉村 この区庁舎は素晴らしい。現代のお城である。
- ピール議長 この庁舎は歴史のある建物である。すぐ隣にはビジネス地区、そして公営住宅などもある。
- 杉村 まちがコンパクトにまとまっていて、道路ネットワークが整然としている。入り組んだ道路がない。

○ピール議長 交通網は整っている。マンチェスターの中心地にもすぐに行ける。新しい住宅地をつくっているが、マンチェスターで働く人にとってお買い得で、入手しやすい住居がある。

○ボルトン区議会議員 ボルトンのどこからも高速道路にアクセスしやすいので、ほかの都市への交通の便が良くビジネスしやすい。マンチェスター空港にも近い。

○杉村 ボルトンはすべてそろっている。素晴らしい。

○ピール議長 ボルトンは産業革命の最先端にいたところである。特に綿工業はここが中心であった。綿工業が盛んだったので、綿工業を支えるためのエンジニアリングが発達した。

また、ロンドンを除くと、世界最大級の古代エジプトの収集品がある。アメリカの南北戦争が始まって、アメリカから輸入していた綿花が輸入できなくなったので、エジプトに綿花を求めて行った。その際に、綿花とともにエジプトの珍しいものを入手した。これが観光の魅力になっている。

○マリア・ゴンザレスグレーター・マンチェスター合同行政機構国際部長 今日いよいよ姉妹都市提携の調印式を行う。ボルトンは、グレーター・マンチェスター合同行政機構の重要な都市である。姉妹都市提携をして、これから関係を構築していこうと考えると、今後ボルトンと大阪市と一緒に協力していけるところはどんなところなのか。どういうところにチャンスがあるとお考えなのか。昨日はヘルスイノベーション、医療関係のお話があったが、我々として今後大阪市とのパートナーシップを強化するに当たってどんな領域がいいのか。これから始まるころではあるが、杉村議長としてはどのあたりがいいとお考えか。

○杉村 先ほどピール議長からお話のあったサイバー技術について、昨日訪問したマンチェスター・メトロポリタン大学でお話しした起業家の皆さんからも熱い思い、野心を感じた。また、ピール議長のプレゼンテーションを聞いてボルトンの意欲も強く感じた。ボルトンは今から 150 年以上前にとっても繁栄した時代があり、我々大阪はそれを学び、工業を発展させたが、その後ボルトンも大阪も衰退した時代があった。それでも再びチャレンジしてきた歴史を持つボルトンと大阪は似ていると感じた。その良い部分、悪い部分も大阪はボルトンから学びたいと思う。

サイバー技術は、現在大阪はボルトンにかなわない部分だと思う。先進国になる過程で、電話線など有線のもので発展してきたがために、無線、Wi-Fi、サイバー技術が遅れている。そうした面の技術を生かしたいと思う。

○ピール議長 グレーター・マンチェスターと大阪がお互いに学び合うことはたくさんあると思う。グレーター・マンチェスターは、現在のイギリスで最も経済成長の著しいところである。その中でもデジタル業が特に進んでいる。それに必要な技術がある。これをもっと高めていきたい。AI は進歩の速度が速い。それに常に追いつかなければならない。ほかの国との国際的競争に打ち勝たなければならない。

- ボルトン区議会議員 技能を持った労働力が鍵になる。
- 杉村 マリア部長の質問に対して、さらに加えるなら、ボルトンのサッカーである。大阪にはセレッソ大阪というサッカーチームがある。大阪は、人気のある野球チーム阪神タイガースがあるが、サッカーも人気がある。ボルトンと言えば、中田選手、西澤選手が以前所属していた。大阪の人たち、子供たちはプレミアリーグが大好きである。
- デイビッド・チャドウィック名誉市長 ボルトンと大阪のサッカーチームで試合をしよう。
- 杉村 プレミアリーグと日本のＪリーグでは伝統も実力も差があるが、大阪の人たちが聞けば大変喜ぶと思う。
- チャドウィック名誉市長 ボルトン・ワンダラーズは、イギリスで最も古い歴史を持つサッカーチームの一つであり、イギリスにサッカーリーグができた当初からのメンバーである。ボルトンにはワンダラーズの熱烈なファンが多いが、マンチェスターに近いのでマンチェスターのチーム、ユナイテッドやシティのファンも多い。
- マリア国際部長 大阪は、日本の中で「食の中心地」だと聞いている。ボルトンはフード&ドリンクのまちである。
- 杉村 それも言おうと思っていたが、姉妹都市の調印式が終わったあとのパーティーでたこ焼き、お好み焼き、ラーメンがふるまわれると思うので、横山市長のためにそのお話はとっておいた。
- マリア国際部長 大阪市が「食」にかかわってグレーター・マンチェスターと連携するならボルトンは外せない。ボルトンはイギリスの「食の中心地」である。
- ボルトン区議会議員 ボルトンには、パンで有名なウォーバートン (Warburtons) などの食品関連企業がある。来年の 21 回目のフード&ドリンクフェスティバルにぜひ来ていただきたい。世界中の食を楽しんでいただきたい。



記念品贈呈



ボルトン区議会の皆さんと

オールダム区議会表敬訪問

9月5日午前11時30分、グレーター・マンチェスター合同行政機構を構成する自治体の一つであるオールダム区議会との交流を図るため、オールダム区庁舎を訪問した。

【杉村の挨拶の概要】

Nice to meet you. My name is Kotaro Sugimura. And I'm the President of the Osaka city council.

アブドゥル・ジャバー副議長をはじめ、オールダム区議会の皆さんと本日お会いすることを大変楽しみにしていた。心温まる歓迎に心から感謝申し上げる。

大阪は、かつて「東洋のマンチェスター」と呼ばれていた。それは、18世紀から19世紀にかけて行われた産業革命がマンチェスターで発祥し、世界の産業をリードしていたが、アジアにおいては、我が大阪がマンチェスターの成功にならって急速に産業を発展させたことに由来する。

古くから大阪とグレーター・マンチェスターには共通点が多いが、近年は様々な分野での交流が深化しており、大阪市にとってグレーター・マンチェスターは最も重要なパートナーの一つとなった。アンディ・バーナム市長が今年の6月に大阪に来られた時に、「これからはマンチェスターが西洋の大阪を目指す」と言われた。大変うれしく思う。本日、姉妹都市提携が調印され、ますます幅広い分野で両都市の交流が深まることと思う。

また、大阪では10月13日まで「大阪・関西万博」が開催されている。ぜひ何度でも大阪へお越しいただき、活力あふれるその姿と大阪の「おもてなし」を感じていただきたいと思う。大阪で再びお会いできることを楽しみにしている。

最後になったが、ジャバー副議長をはじめオールダム区議会の皆さんに深く感謝申し上げますとともに、オールダム区議会のますますのご発展と大阪市とグレーター・マンチェスター合同行政機構の繁栄を祈念して私の挨拶とする。



挨拶の様子

【アブドゥル・ジャバー副議長(Deputy Leader Abdul Jabbar)の挨拶の概要】

私はオールダム区議会副議長のアブドゥル・ジャバーである。本日は名誉市長のエディ・ムーア氏にも同席いただいている。

オールダム区議会を代表して、ムーア名誉市長と私が歓迎申し上げる。もう 30 年議員をしている。2004 年と 2005 年には市長をしたこともある。

アンディ・バーナム市長とお会いになったとのことであるが、バーナム市長はグレーター・マンチェスターの市長としていろいろな実績を上げている。マリア国際部長にもいろいろとやっていただいている。我々も大阪市とのパートナーシップを強めるためにできることは何でもやりたいと思っている。オールダムの住民の生活の質を向上させるために、国内外を問わずパートナーシップを強めていきたいと思っている。

【オールダムの紹介と意見交換の概要】

○ムーア名誉市長 オールダムを飛躍させた木綿産業が衰退した後、オールダムでは変化に対応するためにいろんな産業に挑戦してきた。現代は技術の発展がすごいスピードで進んでいるので、我々もそれについていかなければならない。

○ジャバー副議長 産業革命の頃、我々は大阪に紡績機械を売ったことからその関係は始まっている。

○マリア・ゴンザレスグレーター・マンチェスター合同行政機構国際部長 グレーター・マンチェスターの中に 10 の区や市がある。ジャバー副議長はオールダム区議会の副議長であるが、グレーター・マンチェスターの議員としての仕事もしている。議長だけがグレーター・マンチェスターに参加するのではなく、いろいろな委員会があって、議長以外の議員もそこにかかわっている。

○ジャバー副議長 グレーター・マンチェスターには 10 の区議会があり、オールダム区議会はその一つである。オールダムは、人口約 24 万人、面積約 14 km²である。

オールダムは、産業革命以降のイギリスの歴史に深く関与してきた。世界中から輸入した 365 台の紡績機械を使用していた。また、世界中に紡績機械を輸出していたプラットブラザーズという会社があり、製造業も盛んであった。1865 年に薩摩からやってきた留学生たちは、ロンドンにあるユニバーシティ・カレッジ・ロンドンで勉強した。留学生たちはオールダムにもやってきた。1866 年、プラットブラザーズのエンジニアたちは紡績機械の技術指導のために薩摩に行った。オールダムの日本との関係はここから始まった。

オールダムには、当時ものすごい数の紡績機械があって、多くの人が働いていた。オールダムは世界的に有名な都市であった。オールダムの湿気の多い気候が紡績に適していた。オールダムは晴れの日より雨の日が多い。ここでは綿花から糸を作り、糸をマンチェスターに持って行って布にしていた。糸を作るときは湿ったところでやらないと、乾燥したところで作った糸は切れやすいからだ。オールダムの

湿気の多い気候は糸をつくるのに適していた。

- マリア国際部長 五代友厚氏は 1866 年にここオールダムに来た。五代氏はここで紡績機械に関する知識を得た。
- 杉村 五代友厚氏が 1866 年にここオールダムに来たからこそ、大阪が「東洋のマンチェスター」と呼ばれることにつながってくる。
- ジャバー副議長 その意味で、今回来ていただいて本当にうれしい。我々は大阪との関係を強化したい。

政治面についてお話しする。オールダム区には 20 の選挙区がある。それぞれの選挙区から 3 人の議員が選ばれる。私の選挙区には、私のほかに 2 人の議員がいる。合わせて 60 人の議員がいる。任期は 4 年である。選挙は毎年行われる。オールダムでは、市長 (mayor) は議員の互選で選ぶ。したがって、市長は議員にならないとなれない。市長は、「第一市民」 (First Citizen) と呼ばれる。多数党の議員で内閣 (Committee) を構成する。エディ・ムーア名誉市長 (Lord Mayor) には特別な権限はなく、都市を宣伝する役割を担っている。任期は 1 年間である。市長と言ってもどこの市の市長も同じではない。マンチェスター市、レスター市、バーミンガム市には名誉市長がいる。実際の行政上の権力は、Leader と Sub Leader (議長と副議長) が持っている。

- ムーア名誉市長 グレーター・マンチェスター合同行政機構では、各区議会のリーダーたちが集まって、アンディ・バーナム市長を加えて理事会と呼ばれる内閣をつくりあげている。
- ジャバー副議長 地方自治体の中には様々な委員会があつて、私はクリーンエア・アドミニストレーション・コミッティー (大気汚染対策委員会) に所属している。グレーター・マンチェスターの年金委員会にも所属している。グリーンシティ・リージョンボードという、気候変動などもっと大規模に環境問題を扱う委員会もある。私はその委員会のメンバーでもある。グレーター・マンチェスターでは、リーダーやその他の議員が様々な役割を担っている。グレーター・マンチェスターの首相に当たるのがアンディ・バーナム市長である。リーダーは大臣に相当すると考えていた。それぞれの大臣がポートフォリオ (戦略) を持っている。トラフォードのリーダー、トム・ロスがグリーンシティ・リージョンボードのリーダー (委員長) を務め、戦略の遂行を担っている。

アンディ・バーナム市長がグレーター・マンチェスターで新しいことを行くと、グレーター・マンチェスターの一員である我々オールダム区にも波及する。例えば、交通施策はオールダム区だけでは決してできない広域的な行政である。同様に、警察、投資、空港などの行政も広域でないと実施できない。その意味で、我々はグレーター・マンチェスター合同行政機構があつて良かったと思っている。グレーター・マンチェスターを構成する市や区は、グレーター・マンチェスター合同行政機

構ができる前にもインフォーマルなつながりがあり、合同行政機構となる環境があった。もともとそういう環境があったから、正式に10区のカウンシルの上に合同行政機構をつくってからもうすぐうまくいっている。地方によっては、同じやり方をしてもうまくいっていないところがある。ここは以前から協力体制があったので非常にうまくいっている。アンディ・バーナム市長のような人物が国際的な投資家、国に話しをするとみんな賛同してくれるが、我々小さな区レベルでそれぞれ交渉してもなかなか賛同してもらえない。

○ジャバー副議長 グレーター・マンチェスターについてどこかいいなと思ったところはるか。

○杉村 一昨日こちらにやってきていろいろとマンチェスターのまちを見て、施策の説明を聞いて、成功のポイントは2つあると思っている。1つは、今ご説明いただいた行政の仕組み。もう一つは、アンディ・バーナム市長を中心とした人間同士のつながりだと思う。行政システムと人間のつながり、この両面が非常にうまくいっているのだと思う。



意見交換の様子

○ジャバー副議長 アンディ・バーナム市長は市長になる前に国会議員をしていたので、中央政府が何を考えているのかをよくわかっている。また中央政府とのコネクションがある。

オールダムには“Youth council”「若者の区議会」というものがある。各学校から議員を選んで、若者の区議会があって、我々council「区議会」に対して提案をしてくれる。こうして若い人たちの意見を聞き取っている。

○杉村 “Youth council”「若者の区議会」があるのはオールダムだけなのか。ボルトンやベリーにはないのか。

○ジャバー副議長 ほかの区議会でもやっている。2006年に我々が一番最初にやった。

Youth mayor もいる。若者は何でも発言することができる。規則に Youth councillor が会議に出席して発言できると定められている。気候変動に関して、多くの意見が出る。

私は気候変動に関する委員会に所属しリーダーをしている。Northern route 「北方経路」というプロジェクトがある。ここから 0.5 マイルくらいのところに 168 エーカーの土地があり、野菜や花を育てたり、レジャー・スポーツをしたり、いろいろなことを学ぶことができる施設がある。5 年後には世界でも有名なところになるだろう。ビジターセンター、エデュケーションセンターは、今は空き地である。緑の多い地区なので、ここに来た人にはそれを楽しんでほしいと思う。そこで植物や野菜を育てている。若い人たちにスーパーマーケットで買ってくるのではなく、畑で作るから植物や野菜があるのだということをおぼえてもらう。子供たちや若者にはエデュケーションセンターに一晩泊まって、日の出から日の入りまで一日中自然を観察してほしい。エコロジーと太陽の恵みを体験してほしい。ラーニングセンタービルの一つは来年完成し、夏にはオープンする予定である。杉村議長には特別なオープニングセレモニーの招待状をお送りする。

私はオールダム 新しいアイデンティティを作りたい。アンディ・バーナム市長もマリア国際部長もみんな支えてくれている。

- マリア国際部長 去年、Northern route のツアーを行った。まだ将来の計画の 10% 程度しか実現していなくて全体像は見えないが、ここで野菜を育てている。見たことがないくらい大きな瓜が実っている。シティセンターのすぐ近くにある。オールダムにいるとは思えない静かなところである。どこかの高原にいるような感じである。
- ジャバー副議長 10 月にはアンディ・バーナム市長も来ることになっている。
- ムーア名誉市長 オールダムは、グレーター・マンチェスターの中でもスポーツが盛んなことで有名である。
- 杉村 スポーツというのはサッカーのことか。
- ムーア名誉市長 サッカーはもちろん、クリケット、バレーボール、バドミントン。サッカーは、マンチェスター・シティもマンチェスター・ユナイテッドも人気がある。マンチェスター・クリケットクラブも歴史がある。ウィガンには有名なサッカーチームもある。
- ジャバー副議長 半日あればオールダムの素晴らしいところをご案内できるのだが。
- 杉村 今回の訪問は滞在期間が短いのでオールダムの素晴らしさを十分に見ることができない。せつかくここまで来たのに残念である。オールダムの魅力をもっとじっくり見てみたかった。
- ジャバー副議長 来年 6 月にはラーニングセンタービルが完成し、夏にはオープン

できると思う。オールダムは心穏やかでやさしい人が多く、お互いを思いやる気持ちにあふれている。ぜひもう一度お越しいただきたい。私も大阪にぜひ行きたい。



記念品の交換



ビジターブックに記帳する様子

BLOOM&OSK日本歌劇団 VIP向け公演

9月5日午後1時30分、ジャパンウィークのオープニングフェスティバルに先駆けて実施されたVIP向け公演を鑑賞した。大阪を代表して参加したOSK日本歌劇団は、圧巻のパフォーマンスでマンチェスターの人々を魅了した。



OSKの演舞を紹介する横山市長



OSKの演舞

ジャパンウィーク オープニングフェスティバル

9月5日午後3時、ジャパンウィークのオープニングフェスティバルに参加した。日本に関心を持つ多くの方でにぎわう中、ミャクミャクが登場し大阪・関西万博のPRを行った。



万博をPRするミャクミャク

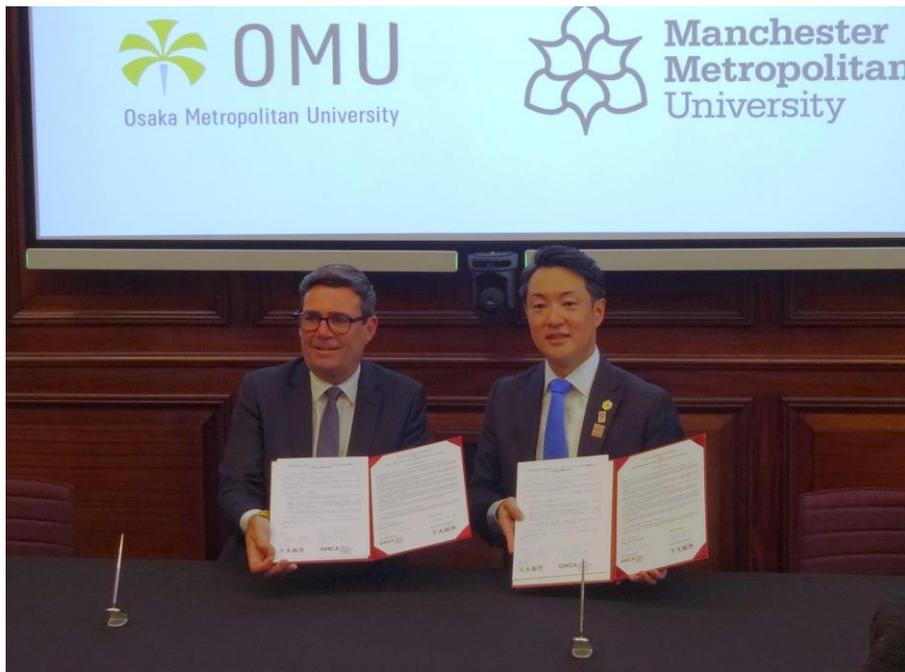


オープニングフェスティバルの様子

姉妹都市提携調印式

9月5日午後4時30分、マンチェスター・メトロポリタン大学で行われた大阪市とグレーター・マンチェスター合同行政機構との姉妹都市提携調印式に出席した。両市において、姉妹都市提携の意義を確認し、今後は文化や大学間連携等、幅広い分野で交流を推し進めていくことに合意した。

また、大阪公立大学とマンチェスター・メトロポリタン大学との意向確認書 (Letter of Intent) も併せて締結された。



姉妹都市提携調印書を披露する両市長

【アンディ・バーナム市長のスピーチの概要】

皆さん、こんにちは。

グレーター・マンチェスターは、日本からの多くの投資を受け入れている。例えば、アステモ (Astemo UK) がボルトンに進出し、1.18億ポンドの投資をしている。また、ミツカンがミドルトン工場において大規模な投資を行う旨発表されている。ミツカンは英国の老舗のビネガー (酢) のブランド、サーソンズを獲得 (買収) し、英国の様々な食品をアピールしてくれている。

我々は鈴木大使に感謝申し上げる。昨夜もエクルズケーキというサルフォード市エクルズのお菓子をSNS (X) で投稿していただき大反響を呼んでいる。

横山市長、様々なレベルで両国は素晴らしい関係を構築してきたが、まだ書面にはなっていない。横山市長の前の席には、サルフォードやボルトン、オールダムやストックポートなどの議長や市長にお越しいただいている。クレイグ市議会長にもご出席

いただいている。全員を代表して申し上げるが、グレーター・マンチェスターは、都心部のみならず、グレーター・マンチェスター全体において、海外投資の素晴らしい効果（benefit）が現れ始めている。

英国と日本の関係が始まったのは、マンチェスター、正確にはオールダムである。日本から来た使節団がプラットブラザーズ社を訪問し、様々な技術を持ち帰られたことから始まったということである。私とクレイグ市議会議長は、日本の大使館のご紹介でトヨタのトップの方からそのようなお話を聞いた。1.18億ポンドの投資の10倍、20倍もの成果を上げたい。マンチェスター空港の関係者も本日お越しになっているが、マンチェスターと大阪を結ぶ直行便をぜひ実現したいので皆様のご協力をお願いしたい。インフルエンサーとしての鈴木大使の力はものすごいので、エクルズケーキだけではなく、他の忘れられかけているマンチェスター発祥のブランド、例えばマンチェスター・ユナイテッドなどのイメージ回復にもぜひご協力いただきたい。



スピーチをするバーナム市長

最後になるが、歴史の重みというものを改めて感じている。日本から使節団が最初に来られてから160年になるが、五代友厚氏をはじめ当時の方々が、今この場において姉妹都市提携をする様子を見てどう思われるだろうか。その当時の友情の輪が幾重にも大きくなってこの調印式を迎えることができたことを誇りに思うとともに、未来に向けて互いに協力を深めていきたい。

【横山市長のスピーチの概要】

皆さん、本当にありがとうございます。バーナム市長、クレイグ市議会議長、そしてリーダー（議長、市長）の皆さんに心より感謝申し上げます。鈴木大使には、姉妹都市提携に多大なるご尽力をいただき感謝申し上げます。昨日はケーキを食べていらっしやうが、今日は祝杯を挙げていただきたい。私はバーナム市長とは何度もお会いして今日の姉妹都市提携にこぎつけることができた。心より感謝申し上げます。バーナム市長とは何度もお会いしているが、ネクタイをしておられるのは2回目だと思う。バーナム市長とは、お互いにリラックスして何度もお話をした。今日はバーナム市長がマンチェスター・シティのカラーのネクタイをしておられるので、私はマンチェスター・ユナイテッドのカラーのネクタイをしてきた。

先ほどのバーナム市長のお話にあったように、150年以上の歴史を共に歩んできた。五代友厚という人は大阪にとって特別な人で、この人が紡績機械をマンチェスターから持ち帰って、大阪では紡績業が盛んになっていった。そして「東洋のマンチェスター」と呼ばれるようになった。この150年以上の歴史の中で、五代友厚氏だけでなく岩倉具視氏もそうだが、多くの先人たちが交流を続けてきた。その交流が150年を超える時を経て、姉妹都市の提携に至ったことを心からうれしく思う。かつて何か月もかけて命がけで海を渡ってきていたが、今は飛行機でも、オンラインでもすぐにつながるようになった。でもマンチェスターと大阪を結ぶ直行便は欲しい。文化面や環境面、ビジネス面もこれからともに戦略を進めていきたいと思う。



スピーチをする横山市長

The Most important is the friendship, I think so. The relationship between Manchester and Osaka will go forever. Thank you very much.

【マルコム・プレスマンチェスター・メトロポリタン大学 (Malcom Press) 副学長のスピーチの概要】

皆様、我がマンチェスター・メトロポリタン大学へようこそ。大阪からの代表団の皆様、横山市長、そして、鈴木大使、ようこそお越しくださいました。皆様のご訪問を光栄に思う。

私たちは、海外の皆様を大学にお迎えするのは大変重要だと考えている。特に文化的な交流の面で大変重要である。大阪公立大学は私たちにとって素晴らしいパートナーだと思う。大学で独自に研究を行うことは大切であるが、協力し合って研究することによってみんなの生活を豊かにしていくことがさらに重要である。ともに研究する、イノベーションを行うことによって、社会が、コミュニティが良くなることにつながっていく。私たちのめざすものは、成長、繁栄である。それを成し遂げるためには大学に支援をいただくこと、国際的なパートナーと協力することが欠かせない。私たちは、共通の価値、アプローチによってビジョンを推進し、高い目標を追求していく。二つの大学が手を取り合うことによって、私たちはより強くなると思う。しっかりと手を結んで、教育・研究をどんどんと推し進めようと思う。そうすることによって教

育も研究も高めていくことができる。協力し合いながら学術研究を進めることによって、友情を育み、信頼を構築し、単独では成し遂げられないことを成し遂げていこうと思っている。

【櫻木弘之大阪公立大学学長のスピーチの概要】

皆さん、こんにちは。

グレーター・マンチェスター合同行政機構と大阪市が姉妹都市提携を締結されたことを心よりお喜び申し上げます。歴史的瞬間に立ち会えたことを光栄に思う。

大阪公立大学は、略称OMUと称している。この特別な機会にOMUとマンチェスター・メトロポリタン大学が国際連携に関する意向確認書を締結することによって、両市のコラボレーションを大学のレベルでも行っていく。これは両大学の将来に向け意義のある一歩になると思う。

これまで両大学間で一緒に研究を行ってきたのは、エネルギー研究の分野であった。特にマンチェスター・メトロポリタン大学の燃料電池のイノベーションセンターとOMUの人工光合成研究センター間での研究である。これは非常に重要なパートナーシップで、両大学の研究は着実に進展している。私たちは、本日の意向確認書の締結を機に新しい協力のエリア（分野）を拡大していこうと思っている。それは健康とスポーツの分野である。実際にOMUの都市健康・スポーツ研究センターの研究者がマンチェスター・メトロポリタン大学を訪問した。また昨日、私たちもこちらのスポーツ研究所を訪問する機会を得て、実り多い話し合いをすることができた。

今回の訪問、意向確認書の合意が新しい、エキサイティングなプロジェクトにつながることを期待している。そして、このパートナーシップによって、将来的には学生の交換に広げていきたいと思っている。海外経験は学生の成長に非常に良いことなので、今後より多くの学生にその機会を提供していき、彼らが交流してくれることを期待している。大阪公立大学とマンチェスター・メトロポリタン大学の強固で、長く続く関係性を構築していきたいと思う。

個人的な話になるが、マンチェスターに来られることは、原子核物理学の研究者として非常にうれしい。ここは1911年にアーネスト・ラザフォード(Ernest Rutherford)が原子核を発見した場所である。歴史上サイエンス（科学）にとって大変重要な場所であり、原子核物理学が生まれた場所と言える。ここは、そのような画期的な発見が行われたところであり、インスピレーションに満ちた場所と言える。

また、マンチェスターは、私にとっても親しみのある所である。1980年代の終わりが、今から35年以上前のことであるが、マーシー川沿いにあるウォリントン(Warrington)というところに住んで、原子核物理学のリサーチ（研究）をしていた。週末には頻繁にマンチェスターに来ていた。私にとって特別な場所によりやく戻ってきたという感じである。温かくお迎えいただいたことに感謝申し上げます。



意向確認書を披露するプレス副学長と櫻木学長

ジャパンウィーク 50回記念カクテルパーティー

9月5日午後6時30分、50回目のジャパンウィークを記念してミッドランドホテルで開催されたパーティーに参加した。出演団体、行政、地元企業等、多くの関係者が出席し非常に賑った。



挨拶をするバーナム市長



パーティーの様子



ミッドランドホテル

乾杯終了後、ホテルの外に移動し、表敬訪問の際に横山市長がバーナム市長に贈呈したたこ焼き器でたこ焼きを作った。横山市長、バーナム市長、クレイグ市議会議長、アーメド名誉領事、マイケル・ブライス英国駐大阪総領事が順番にたこ焼きをひっくり返し、焼き立てのたこ焼きを味わった。たこ焼きづくりが両市の姉妹都市提携調印後初めての共同作業となり、非常に盛り上がった。



たこ焼きをひっくり返す両市長



両市関係者と